

速報！ライティング・マラソン2014



キャンドルで連帯を呼びかけるアルジェリア支部

毎年恒例のライティング・マラソン。今回はおよそ100以上の国で175万件以上ものアクションが行われ、大盛況のうちに幕を閉じました。現在、全てのケースに関して、正確なアクション数の集計とインパクト評価、アムネスティ内部でのプロジェクト評価などを行っている最中で、3月初旬には、詳しい内容を報告できると思います。

参加して下さった皆さん、ありがとうございました！

米国が精神疾患死刑囚の執行を停止

テキサス州の死刑囚、スコット・パネティさんは、昨年12月3日に死刑を執行される予定でしたが、その数時間前に連邦裁判所から停止命令が出され、執行が停止されました。死刑囚が、死刑の理由や意味を理解しているのか、その受刑能力を再検討する必要があるという理由です。

パネティさんは56歳。若い時から重度の精神疾患を患っています。1992年に義理の両親を殺害したときも、精神疾患の影響があることは明らかでした。それにもかかわらず裁判能力があるとみなされ、本人の求めを受けて、弁護人をつけずに自分で弁護を行うことが許可されました。その時の法廷で見られた奇態が、妄想によるものであることは明からでしたが、「受刑能力がある」として死刑判決が下され、上級審でも支持されていました。

弁護団は控訴裁判所での弁論で「仮に当時、受刑能力が

あったとしても、現在もそうだとはいえない」と主張。アムネスティを含めた人権団体や元検事、精神科医、国連の人権専門家からも寛大な措置を求める声があがっていました。パネティさんの妹が州知事に送った執行停止の請願署名には1カ月で米国内外から9万7000筆が集まりました。

本件に関するアクションはこれで終わります。アピール文を送って下さった皆さん、ありがとうございました！

死刑囚、松本健次さんへのアクションを！

松本健次さんは1990年の強盗、91年には殺人の容疑で逮捕され93年に死刑判決を受けました。それ以来20年以上、毎日、死刑執行の恐怖にさらされてきました。松本さんは生まれた時から水銀中毒（水俣病）による障がいがあり、IQは60、70しかありません。長期の独房生活の影響で妄想性障がいもあります。そのため弁護人との会話や法廷で審理も難しい状態です。

アムネスティでは、来月2月3日の松本さんの誕生日に合わせて連帯のメッセージを送る計画です。本人の体調を考慮し、メッセージはアムネスティがとりまとめた上で、母親のツユコさんに送ります。ひたすら息子の減刑を求めてきたツユコさんも80歳を過ぎているため、連帯のメッセージはシンプルなものに結構です。

〔例文〕松本ツユコ様

連帯と支援の気持ちをお送りします。（皆さんのお名前）

〔宛先〕〒101-0052

千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F

公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本
死刑廃止担当者

一人でも多くの皆様のご参加をお待ちしています。

UA ニュース

発行：アムネスティ・インターナショナル日本

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F

TEL: 03-3518-6777 FAX: 03-3518-6778

E-mail: uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費 3000円

郵便振替 00120-9-133251

加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本